

「多重対応分析」第1版第1刷 正誤表

頁	該当箇所	誤	正
xiv	↓11	多重対応分析に基づき変数を使い分ける「構造化データ解析」(SDA)	変数を使い分けた多重対応分析である「構造化データ解析」(SDA)
17	訳注2 ↓3~4	大隅他(1997)	大隅他(1994)
21	訳注68 ↑2	…大隅他(1998)	…大隅他(1994)
30	↑5	…、その平均点 A は線分 $M_1M_2$ の midpoint である。	…、その平均点 A は線分 $M^1, M^2$ の midpoint である。
60	↓6	また、 $\bar{M}^k$ の第 $l$ 主座標を $\bar{y}_l^k$ と記す。	また、 $\bar{M}^k$ の第 $l$ 主座標を $y_l^k$ と記す。
60	↑1	…、点 $M^B$ に対しても…	…、点 $M^b$ に対しても…
64	表 3.2 内	表 3.2 内の以下の箇所の訂正 ↑8 行目の「合計」欄 28.0 ↑1 行目の「合計」欄 28.0	↑8 行目の「合計」欄 28.0 → 24.0 ↑1 行目の「合計」欄 28.0 → 20.0
71	表 3.7 内	表 3.7 内の以下の箇所の訂正 ■映画 (19.3%)	■映画 (34.6%)
81	↓9	…と一致する (p.63 を参照)。	…と一致する (p.62 を参照)。
89	↑7	-0.2897 (男性) と -0.2458 (女性)	-0.2897 (男性) と 0.2458 (女性)
100	表 4.2 内	0.3093	0.3083
115	原書注	Freedman and Lane (1982)	Freedman and Lane (1983)
118	↓4	$d = \sqrt{\left(\frac{\bar{y}_1}{\sqrt{\lambda_1}}\right)^2 + \left(\frac{\bar{y}_2}{\sqrt{\lambda_2}}\right)^2} = \sqrt{y_1^2 + y_2^2}$	$d = \sqrt{\left(\frac{\bar{y}_1}{\sqrt{\lambda_1}}\right)^2 + \left(\frac{\bar{y}_2}{\sqrt{\lambda_2}}\right)^2} = \sqrt{y_1^2 + y_2^2}$
120	↓12	$\tilde{n} = \frac{1}{\frac{1}{142} + \frac{1}{90}} = 58.332, Z_{obs}$ $= \sqrt{58.332} \times \sqrt{\frac{1214}{1215}}$ $\times 1.32 = 10.07$	$\tilde{n} = \frac{1}{\frac{1}{142} + \frac{1}{99}} = 58.332, Z_{obs}$ $= \sqrt{58.332} \times \sqrt{\frac{1214}{1215}}$ $\times 1.32 = 10.07$
121	↓6	・嗜好データの例：第 1-2 主平面での、女性の 2 つの年齢層の部分雲の比較	・嗜好データの例：第 1-2 主平面での、女性の 2 つの年齢層の部分雲の比較。
159	国内文献に追加		岩坪秀一(1987)。「数量化法の基礎」、朝倉書店
171	↓2	これを、大隅・ルバール他(1998, pp.321-322), …	これを、大隅・ルバール他(1994, pp.321-322), …

オーム社/ISBN978-4-274-22605-2